

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標		職業人としての基礎的な力の育成			
				地域社会とつながりながら生きる力の育成			
				働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり			
					評 価 結 果 (3)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての 基礎的な力の育成	○授業改善 ～「協働性」を高める～	○協働性を取り入れた学びへの意識が高まっている。しかし協働性の捉え方が一面的になっていたり、教科の目標設定があいまいになっていたりすることから、さらなる授業改善が必要である。	○教職員が教科の目標を意識した授業改善が行われ、専門コースの特性(教科の目標)に応じた協働性を効果的にとり入れている。	○教科グループごとに授業づくりの研究会を設定し、目標達成のための授業になるように、PDCAサイクルで年間を通して授業改善に取り組む。 ○外部講師を招聘し、学習指導要領解説について理解を深めたり、授業研究会で協働性を取入れた学習について検討を行ったりする。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。			
	○キャリア発達を見据えた職業教育、進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○「一般就労」に向けて、専門共通目標を設定し、日々の活動に取り組んでいるが、生徒及び教職員の意識は様々である。	○生徒及び教職員が、「一般就労」や「専門共通目標」の達成を意識しながら日々の実習に取り組んでいる。	○各コースの実態に応じた目標設定や振り返りの方法を検討する。 ○学科会やコース会等を活用して、指導方針、指導内容の共有と改善に取り組む。 ○コースチーフを中心とした効果的なコース運営を行う。			
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○(1年生)自分の良さと課題を理解している。 ○(2年生)自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○(3年生)自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団、学科部、進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。			
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○「生徒心得」の学校ルールが十分に徹底されていない。 ○登下校時の駅でのマナー等で外部から指摘を受けることがある。	○社会の中の一員として挨拶、時間厳守、身だしなみ、交通マナー等を守って生活できる。	○「生徒心得」等のルールを守る重要性や意義を理解させるため、全学年間で統一した指導方針をLHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○学期に1回の登下校指導や生徒会と連携した活動を設定する。			
		○歯磨きが習慣となっている生徒がいる一方、習慣化されていない生徒もいる。 また、歯磨きの習慣は身に付いているが、方法が不十分な生徒が多く、口腔内の清潔が保たれていない生徒が多い。	○自分の歯と口の健康に関心を持ち、主体的に行動しようとする生徒が増える。	○委員会活動で啓発を行い、意識を高めたり理解を深めたりする。 ○関連教科等と連携を図りながら取扱っていく。			
		○生徒同士が関わり合いながら目標に向かって取り組むことを通して、他者の意見や助言を聞くことや、授業で互いに勉強を教え合ったり話合ったり声をかけ合ったりする行動が見られるようになってきている。	○協働性を意識した活動を通して、考えを深めたり相手を尊重した態度を養ったりする。	○HRや学年集会などで、生徒が主体的に活動したり、生徒同士で活動したりする場面を設ける。 ○学年部と生徒指導主事とが連携し、基本的生活習慣や規律など、学級内で振り返る機会を設定する。 ○学年主任会で各学年の取り組みや実態を共通理解し、必要な学習内容について検討する機会を設ける。取組んだ内容について記録をまとめる。			
		○寄宿舎生活チェック表では、実態と乖離した自己評価をしている舎生が半数以上おり、苦手な項目を把握できていない状況が見られる。	○苦手なことでも自分で折り合いをつけたり、職員に支援を依頼したりして上手く行動できている。	○生活チェック表を活用しながら苦手な項目についてはどのように折り合いをつけるかアドバイスしたり、必要な支援を一緒に考えたりする。			
	○学校運営協議会の活用 ・地域連携・企業連携の充実	○昨年度、学校運営協議会を3回実施した。会議以外にも専門教科成果発表への参観により、より学校の様子を知っていたくとともに、生徒の励みとなった。また、地域と一体となった取組がコロナ前の状況に戻りつつある。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受け、本校の魅力発信、地域と一体となった取組へとつなげていく。	○引き続き地域や企業の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。 ○地域との関わり、本校の魅力(生徒の活躍、取組の様子等)を積極的に発信する。			
		○昨年度は、企業を対象とした学校公開「企業参観日」を11回実施した。 ○企業とのつながりを作ったり保ったりする工夫が必要である。	○年間を通して実習先の10%以上の企業が新規開拓企業である。 ○企業参観日を年間10回以上実施し、現場実習の受け入れに繋がっている。	○関係機関との連携や企業情報データベースの活用を通して、積極的に企業新規開拓を行う。 ○企業参観日の案内を積極的に行う。 ○本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行ったり、生徒とのマッチングに繋げるために企業のニーズを吸い上げたりする。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。			

